

【結果の出た事実の重なりが歴史である】

地球温暖化防止実行委員会副委員長 富原道晴

城郭研究家として52年、そこから兵法、戦略、築城という先端技術の求心力、オンリーワンであることを。印刷文明に投じた45年、印刷の果たす役割と使命感、担当した開発という技術革新へのアプローチを。パッケージを通じた30年、ライフラインの責任、環境対策を学びました。そうした、多くの課題が交錯する中で、何ができるか自問自答してきました。表題に掲げた【結果の出た事実の重なりが歴史である】とは、私の信条ですが、勝者の改変というリスクを前提に考えれば、事をなす前に結果が見える。学ぶことでリスクを抑えることができ、リスクのある不要な冒険を最小限にできる。そこに、最新の技術革新が加われば、失敗を恐れることはありません。

環境対策協議会や地球温暖化防止実行委員会で多くの事実、結果を公表していただいたのは、この信念に基づき、勇気をもって失敗のない事実、歴史を積み重ねようとしたものです。人生は振り返り学ぶことができて、時を戻すことはできません。【人間50年下天の内をくらぶれば、夢幻のごとくなり、一度生を得て滅せぬ者のあるべきか】織田信長が愛した謡曲敦盛の一節です。限られた人生を、瞬間を生き切る極意と捉えています。瞬間を生き切る、時を駆ける、挑戦を続ける、未来を見つめる、明日の自分は今日の自分であってはいけない。誰かに何かを期待する前に自分が何ができるか、何をすべきかを考える。全国グラビア協同組合連合会は今、何ができるかをみんなで考え、環境対策で結果を出されました。3・11の危機的状況から新たに派生した、節電、環境、経営という川田委員長の命題にも回答が求められます。対策方法は事実として、事例として示されました。ライフラインの供給責任という経営責任は企業が企業だけのものでないということを求められ、その対策を要求されます。

【世に身生きて心死する者あり、身亡びて魂存する者あり、心死すれば生くるも益なきなり、知りて行わざるは即ち是知らざるなり】取り込んだ事実、学び行動を起こす。生かすための知恵を、若者を生かす知恵を考えるのが本当の事業継承ではないでしょうか。古今の歴史が未来を予測しています。

最後に、小生は今年28日で印刷業界を退任します。お世話になった各位に御礼申し上げます。これからは、伊能忠敬流に疾風の如く駆け抜けたと考えています。よろしくお願いします。ありがとうございました。